



TITLE:

資本主義経済組織の下に於ける商業の一機能に就て

AUTHOR(S):

谷口, 吉彦

CITATION:

谷口, 吉彦. 資本主義経済組織の下に於ける商業の一機能に就て. 経済論叢 1925, 20(6): 1080-1086

ISSUE DATE:

1925-06-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/128284>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號六第 卷十二第

行發日一月六年四十正大

論叢

米價と關稅との關係に就て……法學博士 河田 嗣郎
 勞働者所得に對する特別課稅……法學博士 神戸 正雄
 天保以後の西陣……經濟學博士 本庄榮治郎

說苑

運賃延戾制……法學士 小島昌太郎
 獨逸古典學派の勞賃論……法學士 山口正太郎
 マルクスの絶對地代に就て……經濟學士 八木芳之助
 アダム・スミスの勞働價值法則の妥當性に就て……經濟學士 森 耕二郎

雜錄

資本主義經濟組織の下に於ける商業の一機能に就て……經濟學士 谷口 吉彦
 統計拾穗抄……法學博士 財部 靜治

法令

衆議院議員選舉法摘要・貴族院令ノ改正・治安維持法・關東州ニ行ハルル命令ニ依ル日本船舶ニ關スル件・船舶無線電話施設法・漁業財團抵當法・倫敦協定ニ依リ實施セラルルコトニ決定シタル專門家計畫(所謂ドーズ案概要)

附錄

本誌第二十卷總目錄

雜 錄

資本主義經濟組織の下に於ける商業の一機能に就て

谷 口 吉 彦

I

$G-W \langle A \dots P \dots W \rangle - G$ の循環形式によつて明らかなる如く、資本家的生産方法は、其の前提に於て、貨幣を支出して生産手段及び勞働力を購買する流通行程——貨幣資本の生産資本への轉形——を必要條件とする。従つて再生産の行程を絶えず圓滑に進行せしむるためには、其の前提たる流通行程の圓滑なる進行を必要とし、流通行程の圓滑なる進行を期するためには、少くとも其の購入すべき商品——生産手段——の一定の分量が、絶えず市場に存在することを要する。即ち『生産行程及び再生産行程

を流暢に進行せしめるには、或分量の商品(生産機關)が絶えず市場に存在すること、換言すれば貯藏を構成することを必要とする。』此のことは、單純再生産にとつて必要なるのみならず、擴張再生産にとつては、より高き程度に必要な條件となるであらう。蓋し擴張再生産にあつては、生産手段に對する産業資本家の需要は、遞増的傾向を有するからである。それ故に『 $G-W$ なる轉形より見れば、商品が絶えず市場に存在すること、換言すれば商品貯藏の成立といふ事實は、再生産行程の進行を流暢にし、且つ新たな又は追加的の投資を可能ならしむべき條件として現はれるのである。』此の意味に於て、商品が商品として市場に停滯し、貯藏形態を構成して存在することは、資本家的生産方法の前提より來る必然の要求である。

次にまた、資本家的生産方法の下に於ては、生産物の普遍的形態は商品となつて現はれる。商品資本 W は、 G に轉形すべき運命を有するものではあるが、それが W として市場に留る間

1) Marx, Das Kapital, II, S. 108, 高島氏譯本 第二卷第一冊二三二頁
2) Marx, a. a. O., S. 109, 譯本二三四頁

は、商品貯藏を構成する。併し乍ら『それが商品貯藏を構成することは、即ち自己の目的に反對して心ならずも市場に在留することを意味する。販賣が迅速に行はるれば行はるゝ程、再生産行程は益々流暢に進行するのである。W—Gなる轉形に滯留する事は、……資本が更らに生産資本として盡すべき機能を妨げることになる』から、Wが商品貯藏として市場に停頓することは、再生産の行程を圓滑ならしめる所以でない。のみならず産業資本家がその剩餘價值の一部を更に資本化して、再生産行程を擴張し得るためには、Wの中に含まるゝ剩餘價值を貨幣化せねばならず、Wの中に含まるゝ剩餘價值は、同じくその中に含まるゝ資本價值と共に、一體の存在をなして居るのであるから、擴張再生産を進行せしむるためには、其の程度に於てWの貨幣化を急がねばならぬ事情にある。即ちWを市場に堆積せしめないことは——製品を迅速に販賣することは——再生産殊に擴張再生産を圓滑に進行せしむるために、缺くべからざる

條件となる。

かくの如く産業資本の循環の始點及び終點をなすG—W, W—Gは、互に兩立すべからざる反對の要求を生産行程から受けて居る。即ち生産行程を圓滑に進行せしむるためには、前者に於ては商品貯藏を必要とし、後者に於ては商品貯藏を排斥する。此のことは資本主義經濟組織の下に於て果して可能であらうかどうか？。

二

循環の始點をなす流通行程G—Wは、非資本主義社會との接觸を前提する限りに於ては、必ずしも資本家的生産物の流通たるを要しない。『そのものが出來する所の生産行程の性質はどうでもよい』のであつて、『その商品は、奴隸制に立脚した生産の生産物であつても、または農民なり……共同體なり……國營生産なり……乃至半開の狩獵民その他のものゝ生産物であつてもよい』。それ故に少くとも、G—Wが非資本主義社會との流通である限りは、再生産行程より來る二個の互に矛盾せる要求は、成

3) Marx, a. a. O., S. 109. 譯本二三四頁

4) Marx, a. a. O., S. 82. 譯本一七六頁

5) Marx, a. a. O., S. 82. 譯本一七五——一七六頁

立し得るであらう。此の場合 $G-W$ に關する條件——商品貯藏の存在——は、實は資本主義社會の内部に關するものではないからである。詳言せば、此の場合には $G-W$ に於ける W と、此の W の上に行はれた資本家的生産の結果たる W' とは、全然獨立した二個の存在であるから、この各々に要求せらるゝ別々の條件は、それが互に兩立すべからざる性質のものであつても、各々の條件の成立には何等差支ないであらう。

然るに茲に豫想する所の純粹なる資本主義の社會に於ては、 $G-W$ は資本家的生産方法による商品の流通を意味し、従つてそれは、他の産業資本家に屬する資本循環の終點 $W-W'$ の反面をなすものである。蓋し資本主義社會を前提する限り、甲なる産業資本家がその生産のために必要なる生産手段を买入ゝといふことは、同時に他の乙なる産業資本家がその生産の結果たる商品を甲に賣ることを意味する。之を生産物に就て言ふならば、生産手段たる商品たる限り、其は再び生産界に入らねばならぬものであ

るから、最初の産業資本家が之を賣るといふこと $W-W'$ は、第二の産業資本家が之を買ふこと $G-W$ を意味する。それ故に生産手段の生産に關する限り、資本循環の終點たる $W-W'$ は、其の始點たる $G-W$ に外ならず、 W は W に外ならぬ。

かくの如き事情の下に於て、今問題とする所の再生産行程より來る互に矛盾せる二つの要求が、到底成立し難きものなることは明らかであらう。 $G-W$ に對しては W が貯藏形態にあることを要し、 $W-W'$ に對しては W' が貯藏形態にあらざることを要すといふ條件は、 W と W' との異なる場合に於て始めて可能である。然るに資本主義社會に於ける生産手段の生産に於ては、一生産部門に於ける W は、他の生産部門に於ける W である。同一の商品に關して、互に兩立すべからざる二つの要求の成立せざることは言ふ迄もない。

然し乍ら此のことは、消費手段の生産部門に對しても亦、同様に言ひ得るであらうかどうか

？此の部門の循環終點をなす流通行程 $W \rightarrow G$ も亦、生産手段の生産部門に於ける生産物と同じく、その再生産行程を圓滑に進行せしめんためには、 $W \rightarrow G$ の流通停滯を排斥し、 W はなるべく迅速に貨幣化さるゝことを要するのであつて、此の點に於て兩者の間に相違はない。唯消費手段の生産部門に於ける W は永久に $W(P_m)$ とはならぬ。従つて此の場合には W と W とは個々獨立の存在をなすこととなり、各々に對する互に矛盾する條件も、此處では成立し得るかの様に見ゆる。

言ふ迄もなく、消費手段の生産部門より出づる W の購買者は、一般社會の個人的消費者であり、資本主義社會の下に於ては、その大部分を占むるものは賃銀労働者である。然るに賃銀労働者なるものは、手から口への生活をして居る人々である。毎週賃銀を受けて、日々それを支拂つて行く人々である。従つて彼等より見れば、其の生活資料は、貯藏として豫め準備され得ることを要する。單に賃銀労働者のみと謂は

ず、總ての個人的消費者が、所謂『費消貯藏』をなすことなく、一樣に、市場から口への生活 (from market to mouth) をなすに至ることは、資本主義社會の消費生活に於ける一の特徴と見ることが出来る。それ故に此の社會に於て個人的消費に向ける W も亦、商品貯藏の形態を採つて市場に存在することを必要とする。従つて消費手段の生産に於ても亦、同一の商品 W が、互に兩立すべからざる二個の要求を受けるといふ矛盾に陷る。

三

以上述ぶるが如く、資本主義經濟組織の下に於ては、生産財の生産たると享樂財の生産たるとを問はず、其の生産物は、一方に於て迅速なる貨幣化を要求さるゝと同時に、他方に於て緩慢なる貨幣化——商品貯藏——を要求せらるゝ、といふ矛盾したる現象が起る。さうして私の觀る所では此の矛盾に對して一應の解決を與ふる所に、資本主義經濟組織の下に於ける商業の機能が横たはるものゝ様である。

6) Marx, a. a. O., S. 115, 譯本二四七頁

7) Marx, a. a. O., S. 111, 譯本二三九頁

言ふ迄もなく商業は、産業資本循環の始終に於ける流通行程 $G-W, W-G$ を媒介するものであるが、今 $W-G$ に就て見るに、 W は生産財たる消費財たるを問はず、商業資本家の介入によつて其の貨幣化を迅速ならしめることが出来る。従つて此の場合産業資本家は、その生産物が未だその本來の使命を果さざるに先だち、即ち他の産業資本家に買取られて生産資本に轉形する以前、若くは流通行程を終へて消費行程に入り込む以前に於て、既に早くその生産物を貨幣化して、第二の生産行程に進むことが出来るであらう。それ故に商業は W に對する一方の要求を成立せしめて、再生産行程の進行を一應は圓滑ならしむるものである。

他方に於て商業資本家の介入する限り、 $W-G$ に於ける W そのものは、直ちに $G-W$ に於ける W とはならない。商業資本家は、第一の産業資本家に即する W と、第二の産業資本家に即する W との間に、獨立の存在を有する W を置き、一個の緩衝地帯を設定する。勿論此の場合

に、商業資本家によつて獨立の存在を有するに至つた W と、前の生産行程より出でたる W 及び後の生産行程に入るべき W とは、其の物質的形態に於ては決して相違するものではなく、同一の商品が種々なる過程に於て表るゝに過ぎないものではあるが、茲に問題とする所は、その社會形態の變化に關する。その社會形態に關する限り、商業資本家の介入は、商品をして從來其處に存在せざりし一の獨立形態を形成せしめる。

かくの如くして商業は、第一の産業資本家に向つて W の貨幣化を迅速ならしむると同時に、他方に於て、第二の産業資本家に向つて商品貯藏を提供して、 $G-W$ に關する條件——貯藏形態の存在——を成立せしめる。要するに商業は、 W と W とを分離せしめ、その各々に獨立の形態を與ふることによつて、兩者に向つて要求せらるゝ互に矛盾する二個の條件を満足せしめ、再生産行程をして一應は支障なく進行せしめ得るものである。

かくの如き商業の機能はまた、消費手段の生

産部門と個人的消費者との流通行程をも圓滑ならしめる。此の部門の生産物 W は、一方に産業資本家の生産物であるといふ點に於て迅速なる貨幣化を必要とし、他方に市場から口への生活資料であるといふ點に於て貯藏形態たることを要するものであるが、此の場合にも亦商業は、産業資本家に即する W と、個人的消費者に即する生活資料とを引離して、社會形態上獨立の存

在を保たしめ、産業資本家に對しては W の貨幣化を迅速ならしむると共に、個人的消費者に對しては生活資料の市場堆積を提供する。かくて一應は再生産行程の進行を圓滑にし、個人の消費生活を確保することゝなる。今是等の關係を明瞭ならしむるために、表式を用ひて圖解するならば次の如くなる。

一、商業資本家の介在なる場合

第一産業資本家 $G-W \cdots P \cdots W'-C'$
 (生産財ノ生産) 第二産業資本家 $G-W \cdots P \cdots W'-C'$
 (生産財ノ生産) 第三産業資本家 $G-W \cdots P \cdots W''-C'$
 (消費財ノ生産)

二、商業資本家の介在する場合

第一産業資本家 $G-W \cdots P \cdots W'-C'$
 (生産財ノ生産) 第一商業資本家 $G-W-C'$
 (生産財ノ流通) 第二産業資本家 $G-W \cdots P \cdots W'-C'$
 (生産財ノ生産) 第二商業資本家 $G-W-C'$
 (生産財ノ流通) 第三産業資本家 $G-W \cdots P \cdots W''-C'$
 (消費財ノ生産) 第三商業資本家 $G-W-C'$
 (消費財ノ流通)

最後に、かくの如き商業の機能は、資本家的生産方法に伴ふ前述の矛盾を完全に解決して、再生産行程の進行を永久に圓滑ならしめ得るものであらうかどうか？ 此の問題は此の小論の目的とする所でない。それ故に私は常に『一應は』といふ制限を附することを忘れなかつた。また資本主義經濟組織の下に於ける商業の機能は、之を以つて盡きて居るものであらうか若くは此の外に尙ほ重要な機能を有するものであらうかの問題も、私の茲に觸れ得ざる所である。それ故に私は『商業の「機能」』と題することを忘れなかつた。此の短篇の言ひ得た所は、二重の意味に於て、特稱的である。(一四、五、四、)